

## (管理基準)

**第1条** 家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律（以下「法」という。）

**第3条** 第1項の管理基準は、次のとおりとする。

一 たい肥舎その他の家畜排せつ物の処理又は保管の用に供する施設（以下「管理施設」という。）の構造設備に関する基準

イ 固形状の家畜排せつ物の管理施設は、床を不浸透性材料（コンクリート等汚水が浸透しないものをいう。以下同じ。）で築造し、適当な覆い及び側壁を設けること。

ロ 液状の家畜排せつ物の管理施設は、不浸透性材料で築造した貯留槽とすること。

二 家畜排せつ物の管理の方法に関する基準

イ 家畜排せつ物は管理施設において管理すること。

ロ 管理施設の定期的な点検を行うこと。

ハ 管理施設の床、覆い、側壁又は槽に破損があるときは、遅滞なく修繕を行うこと。

ニ 送風装置等を設置している場合は、当該装置の維持管理を適切に行うこと。

ホ 家畜排せつ物の年間の発生量、処理の方法及び処理の方法別の数量について記録すること。

2 前項の規定は、その飼養する家畜の頭羽数が、牛及び馬にあつては10頭未満、豚にあつては100頭未満、鶏にあつては2,000羽未満の畜産業を営む者については、適用しない。

別紙（農家における記録の様式(乳用牛)）

平成\_\_\_\_\_年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録  
 (記入日：平成 年 月 日)

1 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位：t/年)

種 類	平均的な飼養頭数 (頭) ①	1 頭当たり排せつ物量		1 年当たりの排せつ物量		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④×⑤)
搾乳牛		16.6	4.9			
乾乳牛		10.8	2.2			
未經産牛		10.8	2.2			
育成牛		6.5	2.4			
合 計						

注1) 平均的な飼養頭数は、2月1日現在の頭数又は当該年と前年の2月1日現在の平均頭数等を用いる。

2 処理の方法及び処理の方法別の数量

処 理 方 法	割 合	
	ふ ん	尿
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割	割
③ 浄化処理施設で処理	割	割
④ 焼却施設で処理	割	割
⑤ その他 ( )	割	割
( )	割	割
合計	10 割	10 割

注1) ②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等に譲渡したものについて記入する。

注2) ふん尿混合で処理を行っている場合は、固形物として処理している場合はふん、液状物として処理している場合は尿に記入する。

注3) 割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入する。

別紙（農家における記録の様式(肉用牛)）

平成\_\_\_\_\_年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録

(記入日：平成 年 月 日)

1 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位：t/年)

種 類	平均的な飼養頭数 (頭) ①	1頭当たり排せつ物量		1年当たりの排せつ物量		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④×⑤)
肉用種 2歳未満		6.5	2.4			
肉用種 2歳以上		7.3	2.4			
乳用種		6.6	2.6			
合 計						

注1) 平均的な飼養頭数は、2月1日現在の頭数又は当該年と前年の2月1日現在の平均頭数等を用いる。

2 処理の方法及び処理の方法別の数量

処 理 方 法	割 合	
	ふ ん	尿
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割	割
③ 浄化処理施設で処理	割	割
④ 焼却施設で処理	割	割
⑤ その他 ( )	割	割
( )	割	割
合計	10割	10割

注1) ②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等に譲渡したものについて記入する。

注2) ふん尿混合で処理を行っている場合は、固形物として処理している場合はふん、液状物として処理している場合は尿に記入する。

注3) 割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入する。

別紙（農家における記録の様式(養豚)）

平成\_\_\_\_\_年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録  
 (記入日：平成 年 月 日)

1 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位：t/年)

種 類	平均的な飼養頭数 (頭) ①	1頭当たり排せつ物量		1年当たりの排せつ物量		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④×⑤)
肥育豚		0.77	1.39			
繁殖豚		1.22	2.56			
合 計						

注1) 平均的な飼養頭数は、2月1日現在の頭数又は当該年と前年の2月1日現在の平均頭数等を用いる。

2 処理の方法及び処理の方法別の数量

処 理 方 法	割 合	
	ふ ん	尿
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割	割
③ 浄化処理施設で処理	割	割
④ 焼却施設で処理	割	割
⑤ その他 ( )	割	割
( )	割	割
合計	10割	10割

注1) ②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等に譲渡したものについて記入する。

注2) ふん尿混合で処理を行っている場合は、固形物として処理している場合はふん、液状物として処理している場合は尿に記入する。

注3) 割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入する。

別紙（農家における記録の様式(採卵鶏)）

平成\_\_\_\_\_年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録  
 (記入日：平成 年 月 日)

1 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位：t/年)

種 類	平均的な飼養羽数 (千羽) ①	千羽当たりのふん発生量 ②	1年当たりのふん発生量 ③ (①×②)
雛		21.5	
成 鶏		49.6	
合 計			

注1) 平均的な飼養羽数は、2月1日現在の羽数又は当該年と前年の2月1日現在の平均羽数等を用いる。

2 処理の方法及び処理の方法別の数量

処 理 方 法	割 合
	ふ ん
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割
③ 焼却施設で処理	割
⑤ その他 ( )	割
合 計	10 割

注1) ②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等に譲渡したものについて記入する。

注2) 割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入する。

別紙（農家における記録の様式（ブロイラー））

平成\_\_\_\_\_年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録  
 （記入日：平成 年 月 日）

1 年間の家畜排せつ物の発生量 （単位：t／年）

種 類	平均的な飼養羽数 （千羽） ①	千羽当たりのふん発生量 ②	1年当たりのふん発生量 ③ （①×②）
ブロイラー		47.5	
合 計			

注1) 平均的な飼養羽数は、2月1日現在の羽数又は当該年と前年の2月1日現在の平均羽数等を用いる。

2 処理の方法及び処理の方法別の数量

処 理 方 法	割 合
	ふ ん
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割
③ 焼却施設で処理	割
⑤ その他（ ）	割
合 計	10 割

注1) ②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等に譲渡したものについて記入する。

注2) 割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入する。